

まちづくり交付金 事後評価シート
佐伯市中心市街地地区

平成20年12月

大分県佐伯市

様式2-1 評価結果のまとめ


都道府県名	大分県	市町村名	佐伯市	地区名	佐伯市中心市街地地区			面積	105ha			
交付期間	平成16年度～20年度	事後評価実施時期	平成20年度	交付対象事業費	1,535百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	高質空間形成施設(石畳、緑化施設、照明灯)									
		提案事業	市民ワークショップ、交付対象事業に関する調査、まちづくりセンター									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(城東緑地、住吉広場、まちかど広場)、高次都市施設(観光交流センター)	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	地域創造支援事業(街なかミュージアム)	変更追加した「佐伯教育市民ホール」に機能を振替えたため事業中止			影響なし					
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(市道臼坪女島線)、地域生活基盤施設(札幌広場)	道路:東九州自動車道開通にあわせ観光客の誘導を図るため追加 地域生活基盤施設:まちづくり協議会での要望を受け追加			影響なし					
		提案事業	地域創造支援事業(佐伯教育市民ホール)、事業効果分析調査	地域創造支援事業:市民活動の場、情報発信の場とするため追加 事業効果分析調査:事業効果の専門的な分析をおこなうため追加			影響なし					
交付期間の変更	当初	平成16年度～平成20年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	まちづくり協議会への参加人数	人/年	114	H15	200	H20	204	○	ありなし	市民参加型のワークショップ等の開催により、まちづくりへの関心が高まった。	H21年3月頃
	指標2	交流人口	人/年	130,160	H15	150,000	H20	156,140	○	ありなし	ハード整備にあわせ市民参加型のワークショップ等の開催により、市民活動が活発化し、民間主体のイベントが増えたことにより交流人口の増加につながった。	H21年3月頃
	指標3									ありなし		
	指標4									ありなし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	・市民ワークショップの開催により、市民の地元への愛着が高まり、地元主体のイベント等が活発に行われるようになった。・周辺地区でも新たなまちづくり活動が生まれた。 ・まちづくりセンターの開所により、市民団体の活動が活発化した。・行政と店主との協議を重ねた結果、空き店舗調査など商店街独自の活動が行われた。											
5)実施過程の評価	実施状況										今後の対応方針等	
	モニタリング								都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			
	住民参加プロセス	地域住民による事業部会の設立とワークショップ	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							●	事業推進にあたり、今後も住民参加によるワークショップを開催し市民活動の活発化を図る。また、事業実施終了箇所についても、ボランティア活動の推進など側面から支援したい。	
持続的なまちづくり体制の構築	中心市街地まちづくり活動メンバー会議	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							●	自主活動を促し、市は後方支援に徹する。		

様式2-2 地区の概要


佐伯市中心市街地地区(大分県佐伯市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：中心市街地における賑わいの創出と、都市のシンボルゾーン形成 目標1：市民、商業者等が積極的にまちづくりに関与することにより、沿線の商業活動の活性化と市民活動の活発化を図るとともに地区内への人口の定着が促進されることを目指す。 目標2：旧城下町を構成する個性ある3地区間(大手前地区、仲町周辺地区、山際周辺地区)の回遊性強化と交流機能の強化によって来外者の増加を図る。	まちづくり協議会への参加人数	単位：人/年	114	H15	200	H20	204	H20
	交流人口	単位：人/年	130,160	H15	150,000	H20	156,140	H20
		単位：		H		H		H
		単位：		H		H		H
		単位：		H		H		H


市道臼坪女島線(基幹:道路)

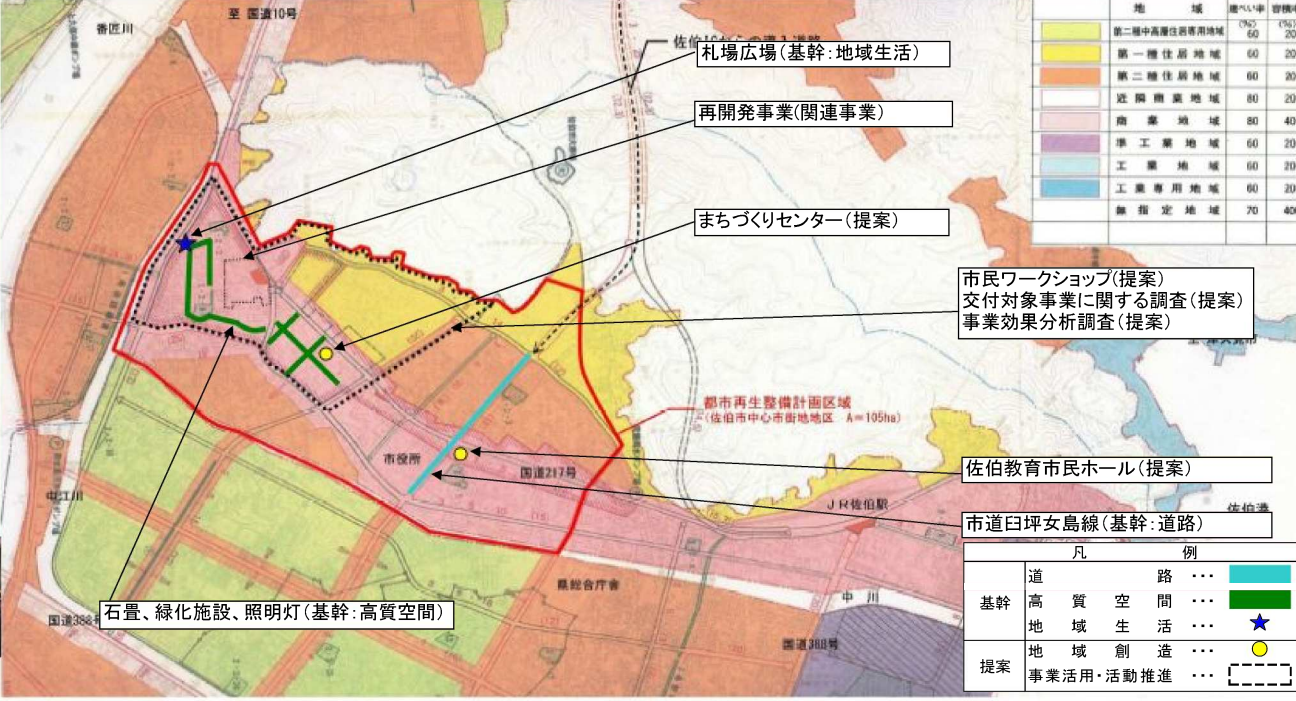


佐伯教育市民ホール(提案)



市民ワークショップ(提案)





石畳、緑化施設、照明灯(基幹:高質空間)

札幌広場(基幹:地域生活)

再開発事業(関連事業)

まちづくりセンター(提案)


市民ワークショップ(提案)
交付対象事業に関する調査(提案)
事業効果分析調査(提案)

佐伯教育市民ホール(提案)


市道臼坪女島線(基幹:道路)

石畳、緑化施設、照明灯(基幹:高質空間)


整備前



整備後



まちづくりセンター(提案)



凡 例	
道	路 …
高 質 空 間	…
地 域 生 活	…
地 域 創 造	…
事 業 活 用 ・ 活 動 推 進	…

まちの課題の変化

- ・商業活動と市民活動が活発化し、新たに民間主体のイベントが行われたり、緑化運動などの自治活動が活発化した。
- ・地区内道路の高質化整備により、「おもてなし」機能(回遊性など)が強化され交流人口が増加した。
- ・まちづくり協議会や市民ワークショップの開催により、まちづくり機運が醸成された。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・コミュニティバランスの回復を図るために、若年層の定住促進を図る。民間住宅供給業者との連携強化を図り事業を促す。
- ・大手前地区の早急な再生のために、商店街、地権者等と連携を強化する。
- ・既存建造物保存から住民による地区計画作成のため、勉強会を行う。
- ・高速道路から市街地への車の流入を考え、交通結末点等の強化を図る。
- ・既存都市機能の佐伯駅・港を観光に重点を置き、山際地区とあわせて来街者の滞在時間の増加を図る。
- ・「おもてなし」機能の強化のため、山際周辺地区に観光交流センターを設置する。